

古典書き出しクイズ

組
番

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。 その年の、十二月の
はつか 二十日あまり一日の日の戌の刻に門出す。

作品名	作者名	時代	成立

やまと歌は、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。 世の中にある人、
ことわざ 繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて、言ひだせるなり。

作品名	作者名	時代	成立

今は昔、竹取の翁といふものありけり。 野山にまじりて竹を取りつつ、よろづの事に使ひけり。
名をば、 讃岐の造となむいひける。 その中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

作品名	作者名	時代	成立

春はあけぼの。 やうやうしろくなりゆく、 山際少しあかりて、 紫だちたる雲の細くたなびきたる。 夏は
夜。 月の頃は更なり、 闇もなほ、 螢飛びちがいたる。

作品名	作者名	時代	成立

いづれの御時にか。女御、更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、いとやんごとなき際にはあらぬがすぐれて時めき給ふありけり。

作品名	作者名	時代	成立
-----	-----	----	----

つれづれなるままに、日暮らし硯に向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそ物狂ほしけれ。

作品名	作者名	時代	成立
-----	-----	----	----

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

作品名	作者名	時代	成立
-----	-----	----	----

ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。

作品名	作者名	時代	成立
-----	-----	----	----

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。船の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして、旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。

作品名	作者名	時代	成立
-----	-----	----	----